



I・TOP横浜「わかりやすい字幕表示システム（京セラ製）」 横浜ラポールをフィールドに新たな実証実験を開始します

「I・TOP 横浜」では、IoT や AI などの先端技術を活用した生産性向上や社会課題の解決への貢献、新たなビジネスモデルの創出に取り組んでいます。

令和3年11月2日から11月30日の間、中区役所高齢・障害支援課にて行った京セラ株式会社（以下京セラ）が開発した「わかりやすい字幕表示システム」の実証実験を踏まえ、それに続く実証実験を障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」にて実施します。今回は、同社がさらに改良を加えた同システムについて、ラポールの利用者や施設職員からフィードバックを受け、実装化に向けた更なる製品改良を行うことを目的として実施します。

【実証実験の概要】

新型コロナウイルス感染拡大の防止策として、会話をする際のマスクの常時着用やアクリル板を挟んだ会話が定着する一方で、聴覚障害者の方や高齢の方を中心として、「声が聞きづらい」「口元が見えない」というコミュニケーション上の課題も生じています。

京セラが開発する「わかりやすい字幕表示システム」は、音声をリアルタイムに文字として表示することで、新しい生活様式における対面コミュニケーションの課題解決などが期待できます。

- (1) 実施時期：令和4年7月19日（火）から9月30日（金）まで（予定）
- (2) 実施場所：障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」
（横浜市港北区鳥山町 1752）

(3) 検証内容：

- ①システム導入によるお客様満足度、職員満足度、接客時間の検証
- ②お客様の属性による使用感の把握
（健聴者、難聴者、外国人）



【システム設置箇所】



【1階総合窓口】



【聴覚障害者情報提供施設】

【京セラ製「わかりやすい字幕表示システム」の主な特徴】

音声をリアルタイムに認識し、アクリル板などに字幕として表示させます。字幕は透明なアクリル板やビニールカーテンなど既存のものを活用するため、**導入が簡単**です。

また、事前に登録した**単語を自動で強調表示**することや、会話に合わせて**図解も自動表示**することで、よりわかりやすく伝えられるよう工夫しています。

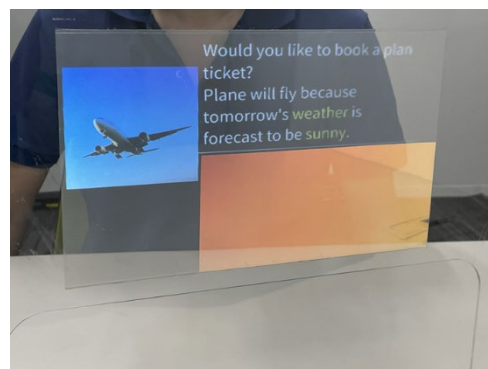
【前回の実証からの主な変更点】

(1) 指向性の高いマイクの採用

前回の実証で課題になっていた「お客様側の声を拾い、字幕表示されてしまう問題点」を改良するため、お客様の声を拾わないよう指向性の高いマイクを採用。

(2) 翻訳機能の追加

窓口職員側の音声を翻訳し、字幕へ表示。
対応言語は英語、中国語、韓国語に対応。



【参考1】障害者スポーツ文化センター 横浜ラポールについて

横浜市における障害者スポーツ・文化活動推進の中核拠点施設として、1992年に設立。運営者は社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団。新型コロナウイルス感染症の流行以前は、年間約40万人の利用、様々な障害をお持ちの方が利用しています。

【建物】 地下1階、地上3階

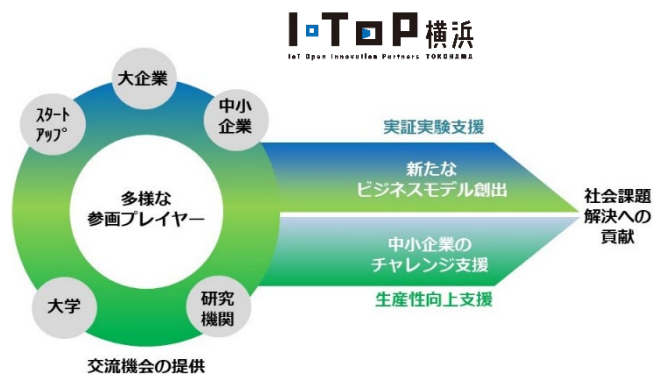
【主な施設】 アリーナ、25m×6コースの温水プール、フィットネスルーム、グラウンド、テニスコート、ボウリングルーム、創作工房等文化施設、手話通訳等の派遣

【実施可能競技】 車いすバスケットボール、電動車椅子サッカー、陸上、水泳、テニス、卓球、ボッチャ、アーチェリー、フライングディスク 等

【参考2】I・TOP横浜（IoTオープンイノベーション・パートナーズ）

【I・TOP横浜（IoTオープンイノベーション・パートナーズ）とは】

横浜経済の強みである「ものづくり・IT産業の集積」を生かし、IoT等（IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等）を活用したビジネス創出に向けた、交流・連携、プロジェクト推進、人材育成等を包括的に進めていくプラットフォームです。これらの取組から個別プロジェクトを立ち上げ、「新たなビジネスモデル創出」、「中小企業のチャレンジ支援」、「社会課題解決への貢献」を目標としています。



I・TOP横浜ウェブサイト
<https://itop.yokohama/>

お問合せ先

(I・TOP横浜に関すること)	経済局産業連携推進課担当課長	松本 圭市	Tel 045-671-3591
(横浜ラポールに関すること)	健康福祉局障害自立支援課長	今井 智子	Tel 045-671-4130
(製品・実験内容に関すること)	京セラ株式会社 広報室	東京	Tel 03-6364-5503

※本件は、横浜経済記者クラブにも同時発表しています。